

ほちよう器のことを知ってください

小 四

ぼくの耳は、生まれつき高い音が聞こえにくい、「なんちよう」です。全然聞こえないわけではないので、ほちよう器を着けて生活しています。学校のじゅ業では、「ロジャー」というマイクのような送信機を先生に着けてもらい、ぼくのほちよう器に、直せつ声がとどくようにしてあるものを使っています。

ほちよう器や「ロジャー」を使えば、聞こえにくかった音も聞こえるし、先生や友達の声も聞こえます。でも声は聞こえても、何と話しているのかを全部聞きとることはむずかしいです。早口で話されたり、下を向いて話されたり、後ろか

ら話しかけられたりしたら、ほちよう器を着けていても、全然分かりません。

「ほちよう器を着けていれば、聞こえるでしょ。」

とよく人から言われます。みんなほちよう器を着けていれば、問題なく聞こえると思っっています。だから、よく聞き取れなくて分からないでいると、

「聞いていない。」

とおこられることがあります。ほちよう器は、聞こえなかった音を聞こえるようにしてくれるけれど、万のうではありません。必要のないざつ音まで入ってしまうのです。周りの音がうるさければ、その音まで入ってしまうので、静かなところでないで聞こえないし、音が入るきよりはかぎられるので、外で遠くから話しかけられても、その声は入りません。

ほちよう器は、雨などの水にも弱いです。ぼくは、雨の日にはぬれないように、手でほちよう器を守ることをよくしています。前に友達に、

「雨でぬれるなら、ほちよう器なんてしなればいいじゃないか。」

と言われたことがあります。ぼくはそのとき、悲しい気持ちになりました。どうして、そんなことを言うのだろうと、お母さんに話したことがあります。お母さんは、

「みんなは、ほちよう器のことをよく知らないからじゃない。」

と言いました。ぼくは、そのとき、ほちよう器がどんなときに聞きとりづらいのか、ぼくにとってどれだけ大切なものを、きちんとみんなに話せばいいんだと気付きました。

三年生のときに、たんにんの先生とこぼの教室の先生に「なんちよう理かいじゆ業」を開いてもらいました。ぼくの口から、みんなに助けてほしいことや、どんなときにこまるのかを話しました。そのおかげで、クラスのみんなが、ぼくに親切に教えてくれるようになりました。

ほんの少し、おたがいに理かいするだけで、ごかいはなくなつて、みんなが気持ちよく生活できるのだと思います。ぼくも、みんながこまっていたら、声をかけて助けられる人になりたいです。